

豊かな漁港漁村を誓う

本町で「平成30年度九州地区漁港漁場大会」開催



↑会場を盛り上げ、盛大な拍手を浴びた獅子島七郎山太鼓



↑開会のあいさつをする川添町長



↑迫力の漁船パレード



↑長島の特産品に興味を示す参加者



↑東町漁協の総合加工場の説明を熱心に聴く参加者ら

7月12日、町文化ホールで、九州地区漁港漁場大会が開催されました。

この大会は港整備や水産業の課題解決に向けた取り組みが推進されるよう、国会や関係省庁へ積極的に要請することを目的に、九州各県の漁港漁場協会が毎年持ち回りで開催しているものです。

本町での開催は初めてのことです。九州・沖縄各県の漁業や行政関係者ら約625人が集まりました。

主催者を代表して、鹿児島県漁港漁場協会会長の川添健町長が「九州地区の『浜』の声を結集して、全国へ届ける大会にしたい」とあいさつしました。

10月に大阪で開催される全国漁港漁場大会への提出議題を「新たな漁港漁場整備長期計画の着実な推進」、「漁港・漁場・漁村の環境整備の促進」、「社会資本整備重点計画（海岸事業）の推進による防災機能の充実」とそれに必要な財源確保をすることに決定しました。「安全で安心な水産物の安定供給と豊かな海の自然環境の保全に努める」とする決議を行い、東町漁業協同組合の長元信男組合長から閉会のあいさつがあり、大会は締めくくられました。

閉会後は、町民による伝統芸

能「獅子島七郎山太鼓」と「鷹巣種子島鐘踊り」が披露され、参加者からは盛大な拍手が沸き起こりました。

現地視察では、針尾公園や杉本酒造株式会社酒蔵見学の後、薄井漁港に移動し、東町漁協の職員や鹿児島県職員による薄井漁港と東町漁協の総合加工場に関する説明が行われました。総合加工場内での見学では、全国で初めて養殖ブリの加工場として、HACCP（危害分析重要管理点）認証を受けたこともあり、参加者は職員の説明に興味深く聞いていました。

薄井漁港の市場内には、特産品ブースが設置され、新鮮な魚介類や加工品などを買い求める参加者で賑わいました。

港内では、大漁旗をなびかせ、漁船パレードが2回にわたり行われ、観客から拍手が送られました。

佐賀玄海漁業協同組合の川内半一郎さんは「長島町に来たのは初めて。ブリ養殖をはじめ、水産業が盛んな町だと感じた。景観にも恵まれ、針尾公園の展望台から天草諸島を眺める景色は素晴らしかった」と満足そうに話しました。